

# 東京海洋大学 SIPプロジェクト

## 海の環境影響評価懇談会 第5回 開催報告

発行：東京海洋大学 SIPプロジェクトチーム 発行日：2017年2月10日改訂

《海の環境影響評価にかかわる社会科学的検討ワーキング》  
ワークショップ

### 海底熱水鉱床開発に際しての社会配慮を考える

#### 第5回はワークショップ

去る2016年12月27日、東京海洋大学品川キャンパス楽水会館において、SIPプロジェクト海の環境影響評価懇談会 第5回「ワークショップ 海底熱水鉱床開発に際しての社会配慮を考える」を開催しました。今回は、「海の環境影響評価にかかわる社会科学的検討ワーキング」の一環として、海洋大SIPプロジェクトチームに加え、懇談会の講師4名を含め、本事業にご協力いただいている外部関係者の方々にご参加いただきました。

本懇談会第1回～第4回では、環境影響評価にかかわる実務者と専門家のお話を聴き、質疑応答をとおして、海洋資源開発にかかわる影響評価をおこなううえでの社会科学的課題を整理してきました。

今回の趣旨は、本懇談会シリーズの最終回として、今までに学んだ内容をふまえて、海底資源開発に際して社会影響評価をおこなううえでの課題を具体的に考えていく準備をしようというものです。

同時に、海洋資源開発に伴うコミュニケーション手法の開発の一環として、「ケース・メソッド」という教育手法をワークショップに適用してみることにしました。ケース・メソッドとは、参加者に具体的な物語「ケース」を紹介し、実際に起きた事柄を疑似体験してもらいながら、その内容にもとづいて話し合いながら協働的に分析を進める教育方法です。米国の専門大学院教育で発達し、経営学、法学、看護学、教育学などの、さまざまな分野の専門教育で用いられています。

今回は、海洋大SIPプロジェクトチームがケース「海底熱水鉱床開発に際してどんな社会配慮が必要だろうか」（未定稿）を準備し、熱水鉱床開発のための社会影響評価をどう始めるのか、考えていただくというワークショップを試みました。

テーブルでの話し合いと、それに続く発表に対する質疑応答では、たいへん貴重なご意見をいただきました。ここでは、ワークショップの概要を簡単に紹介します。

#### SIP東京海洋大学プロジェクト 第5回 海の環境影響評価懇談会 ワークショップ 海底熱水鉱床開発に際しての 社会配慮を考える

日時：2016年12月27日（火）14:30-17:30

会場：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館

#### プログラム

0. アイスブレイク、趣旨のご説明

1. ケース「海底熱水鉱床開発に際してどんな社会配慮が必要だろうか」を読む
2. 海の環境影響評価懇談会（第1回～第4回）のふりかえり
3. 海底熱水鉱床開発に際しての社会配慮の提案書を作ろう
4. 各テーブルから発表と質疑応答
5. 閉会のあいさつ、ふりかえりシートの記入



写真1 アイスブレイク、趣旨説明の後、全員で、ケース「海底熱水鉱床開発に際してどんな社会配慮が必要だろうか」を読み、話し合いの準備。

## 1. ケース「海底熱水鉱床開発に際してどんな社会配慮が必要だろうか」を読む

ワークショップを始めるにあたって、ケース「海底熱水鉱床開発に際してどんな社会配慮が必要だろうか」（未定稿）を全員で読みました。概要は右のとおりです。このケースの「川上さん」になりきって、かつ、今までの懇談会での内容をふまえて、海底熱水鉱床開発にあたっての社会影響評価の提案書をテーブルで考えていただく、というのが、今回のワークショップで試行したいことです。

## 2. 海の影響評価懇談会のふりかえり

ケースを読み終え、テーブルで提案書を考えていただく前に、海の影響評価懇談会第1回から第4回までの内容を、各回の講師または専門家にご説明いただきながら、駆け足でふりかえりました。[]内は、それぞれのお話のなかに出てきた用語です。

第1回「環境影響評価の国際的動向などについて」児矢野マリ・北海道大学大学院教授 [国連海洋法条約、海域区分、国際法の適用、国際海洋法裁判所、予防的アプローチ、国際海底機構ガイドライン、先進国の国内法、社会的配慮]

第2回「日本の海洋環境影響評価の実践における課題について」石田和憲 (株)環境総合テクノス 取締役・東京支店長 [環境影響評価の全体の流れ、排水基準、環境基準、環境調査、沿岸域と外洋の違い、数値シミュレーション、継続的なモニタリングの充実、高精度海洋調査]

第3回「環境影響評価の理念とその国際的動向 - 持続可能な社会の作法 -」原科幸彦・千葉商科大学政策情報学部長・教授/東京工業大学名誉教授 [環境影響評価の国際的動向、米国の環境影響評価の理念、情報公開制度、国民の懸念に応える、アセスメントの本質はコミュニケーション、十分なコミュニケーションのもと環境社会配慮の実施]

第4回「国際開発のプロジェクトファイナンスにおける環境社会配慮確認業務の実践について」大西梨沙・AECOMエリア統括マネージャー [インフラ開発事業、環境社会配慮確認業務、世界銀行、国際金融公社、融資の条件、開発プロジェクト、自然環境・社会環境配慮に対する国内法の不整備、具体的な数値目標・基準、住民移転、補償]

## ケース「海底熱水鉱床開発に際してどんな社会配慮が必要だろうか」（未定稿）概要

海洋調査企業で沿岸域の影響評価にかかわってきた川上さんは、海底熱水鉱床「大戸島サイト」開発試験事業のための環境社会配慮の提案書の作成を求められる。川上さんは、環境影響評価や国際法の専門家へ会い、海底資源開発の流れ、環境社会配慮の必要性、国連海洋法条約や国際海底機構の環境ガイドラインに基づく国際的な基準について知った。そして今、国際協力銀行の環境社会配慮確認のためのガイドライン（鉱山）を参考にしながら、提案書づくりにとりかかろうとしている。



写真2 テーブルで話し合いながら、海底資源開発に際しての社会配慮の提案を検討。



写真3 テーブルで話し合った内容を発表。活発に質疑応答が行われました。

## 3. 海底熱水鉱床開発に際しての社会配慮の提案書を作ろう

海の影響評価懇談会第4回までの内容をふまえ、ケースに則して、熱水鉱床開発に際しての社会配慮の提案についてテーブルで話し合っていました(写真2)。その後の発表(写真3)では、社会配慮における「社会」の範囲やステークホルダーをどう特定するのか、経済的な影響をどう想定するのかなどの論点が提示され、活発な議論がおこなわれました。

今後は、本懇談会で明らかとなった社会配慮の具体的な論点に留意しながら、調査研究を進めていきたいと思っています。

### 海の影響評価懇談会 事務局から

ワークショップの提案書作成にあたっては、実務に就かれている方々から現場で起こっている問題について伺いながら議論を進めました。また、質疑応答では、それぞれご専門の方々から貴重なご意見を多くいただきました。年の瀬のお忙しい時期にご参加いただき、ありがとうございました。

発行：東京海洋大学SIPプロジェクトチーム

発行年月日：2017年2月10日改訂

住所：〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

東京海洋大学 海洋科学部

電話：03-5463-0574 (川辺)

HP：<https://www3.kaiyodai.ac.jp/sip-ocean/>

